「中津川小学校の伝統芸能伝承活動の取組」

１　学校名
さつま町立中津川小学校

２　学年・人数
３～６年　25人

３　日時・場所
⑴　練習の日時・場所
９月５日～28日（13日間）
17：00～18：30
中津川小学校校庭
⑵　発表の日時・場所
令和５年９月　中津川小学校・校区合同運動会
令和５年10月　大石神社秋の大祭

４　伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について
⑴　名称
俵踊り（たわらおどり）

⑵　由来
社寺等の落成式や祭典には催し物に，よく相撲がなされた際に，寄進されたものを土俵上に積んで見物客に披露し，謝礼の意を表した。
当時の寄進は大部分が米であったので，化粧まわしを締めた関取が相撲甚句を唄いながら円陣形をとって踊り，土俵祭りがすむと飾ってあった米俵をリレー式に外に運び出した。この米俵を運ぶ格好を舞踊化したのが，この俵踊りと言われている。

⑶　構成等
衣装は，かすりの着物にもんぺ姿で俵を持って踊る。

５　保存会や地域との連携の具体
俵踊りは，もともとは中津川校区の北方町に伝わる北方町俵踊りとして，継承されていた。昭和44年に町無形文化財に指定され，校区の伝統芸能の継承を考え，中津川小学校に文化財少年団として保存会を立ち上げて活動している。校区合同の運動会，大石神社秋の大祭での奉納が毎年発表の場となっている。
現在小学生３～６年生が25名で活動しているが，踊りの練習は，保存会の森重利夫氏をはじめとする，北方町俵踊りのお師匠様を中心に踊りの指導していただいている。

６　文化財伝承・活用の取組の工夫した点
学校と地域が連携協力しながら俵踊りを継承していくために，学校に「中津川文化財少年団」を発足し，俵踊り保存会として事務局を置いている。今後も継続して地域と連携し，俵踊りを伝承していける態勢を整えている。

7　取組の様子（練習状況，発表の場等）

【　運動会での披露　】

【大石神社秋の大祭　奉納踊り】

8　参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【３年生児童】

わたしは，初めておどって，どきどきしました。最初はきんちょうしたけど，どんどんおどっていくうちに，楽しくなってきました。午前の部は最初だったので，「たわらを落とさないようにしよう」と心の中でずっと思いました。３曲目の時に，頭に豆しぼりを巻くのに間に合うか心配でした。だけど，なんとか間に合ったのでうれしかったです。６曲目は，リズムに合うか心配でした。間に合ってほっとしました。初おどりはとても楽しかったです。

【４年生児童】

わたしは，俵踊りをして，上手になりたいと思いました。だから，たくさん練習をしました。疲れたけれど，神様に見られるので，頑張りました。本番は，緊張したけど，上手に踊れたと思います。２回目の俵踊りでしたが，最初は覚えていなかったけれど，だんだん思い出して，楽しく踊ることができました。

【５年生児童】

金吾様踊りは，私が小さい頃からあります。私たちを見守ってくれたものでもあります。お師匠様から教えていただいた金吾様の大切さとかを後輩や子どもたちに教えてあげたいです。俵踊りを踊らせてくださったことに感謝したいです。

【６年生児童】

私は，お師匠様方から，踊りもだけど，金吾様を祭る気持ちと，熱心に教える気持ちを受け継ぎました。お師匠様から，熱心に教えようとする気持ちを受け継ぎました。

大人になったら，お師匠様みたいに，子どもたちに教えたいです。

【教職員】

代々引き継がれる踊りの衣装が老朽化し，昨年度から少しずつ新調することにしました。衣装が軽くなったことで，涼しくなり，子どもたちもにこやかです。また，今年は，衣装で使うわら草履も地域の方を招いて，親子で作ることになりました。悪戦苦闘のわら草履体験教室でしたが，手作りのわら草履を手にした子どもたちが満足気の表情が印象的でした。地域の宝である俵踊りを今後も守り続けていって欲しいと思います。

【保存会・指導者】

中津川に住む子どもたちがふるさとの「俵踊り」を継承してくれるのがありがたいです。中学生になっても後輩たちの様子を見に来てくれる子どももいるので，踊りを引き継いでいこうとする気持ちが伝わりました。